

平成24年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価報告書

小 林 市 教 育 委 員 会

○自己点検・評価の考え方

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成20年度から教育委員会の権限に属する事務の管理・執行について点検及び評価を行うこととなった。

小林市教育委員会が、地域の教育課題に応じた基本的な教育の方針・計画を策定し、これに即して実施した政策について、政策効果をしっかりと把握し、必要性、効率性等の観点から自ら点検・評価を行い、その結果を公表することは、政策立案を的確に行うとともに住民に対する説明責任を果たす上で重要である。

小林市教育委員会においては、平成24年度分の自己点検・評価を平成25年度に実施し報告を行う。

なお、教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務については、企画政策課でとりまとめている「事務事業評価」を自己点検・評価として代替するものとする。

○具体的な点検・評価の方法

次の2つの項目に分類した。

シート その1 教育委員会の活動

シート その2 教育委員会が管理・執行する事務

※教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務については、事務事業評価を代替として報告を行うものとする。

○重要度・実現度の基準

高 中 低 ↑	実現度				
		→		重要度	
			低	中	高

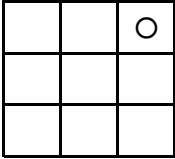
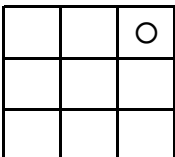
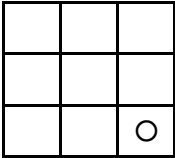
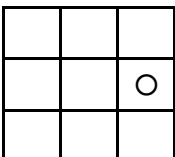
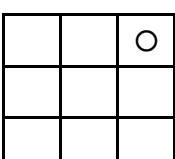
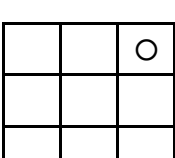
【重要度】

- 「高」 非常に重要
- 「中」 重要
- 「低」 緊急性は低い

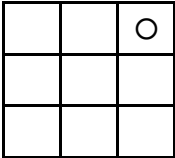
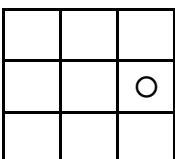
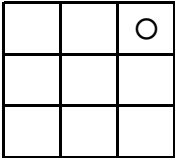
【実現度】

- 「高」 目的を達成できた
- 「中」 概ね目標を達成できた
- 「低」 目的達成には努力を要する

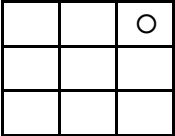
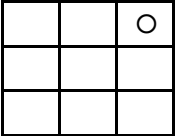
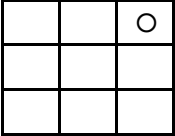
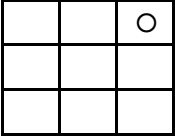
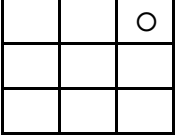
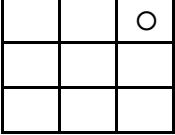
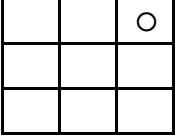
平成24年度 小林市教育委員会の自己点検・評価シート その1

大項目	中項目	小項目	点検・評価		
1 教育委員会の活動	(1) 教育委員会の会議の運営改善	① 教育委員会会議の開催回数	実現度 ↑ → 重要度		<p>定例会については月1回、臨時会については急を要する議案等が生じた場合に開催した。</p> <p>24年度は、12回の定例会、1回の臨時会を開催した。会議では事務局からの報告件数が10件、上程された議案は82件であり、教育委員の承認件数は82件であった。</p> <p>今後も計画的に会議を開催するとともに、本市の教育推進のため十分な議論、検討を行っていく。</p>
		② 教育委員会会議の運営上の工夫	実現度 ↑ → 重要度		<p>24年度から、市民の皆様が教育委員会へ足を運びやすい環境とするため、夜間開催や開催場所を須木地区・野尻地区でも実施するなど運営上の工夫を行った。</p> <p>また、議案の事前配付により議案熟読の時間を確保し円滑な会議の運営に努めたり、教育委員長が相互の意見交換が図られやすい雰囲気作りに努めたり、教育長が教育行政の状況について毎回報告を行い委員間の情報共有に努めるなど、会議進行上の工夫も行った。</p>
	(2) 教育委員会の会議の公開	① 教育委員会会議の傍聴者の状況	実現度 ↑ → 重要度		<p>教育委員会会議の開催日は告示しており、ホームページにおいて、開催を市民に周知した。また、夜間開催（9月）を行ったり、開催場所を移動するなど改善を図ったが、傍聴者数は1名と少なかった。</p> <p>より広く周知する方法や、開催方法（休日開催、スクールミーティング等）等について、継続検討する必要がある。</p>
		② 会議録の公開、広報・公聴活動の状況	実現度 ↑ → 重要度		<p>会議の議事録の情報公開請求はなかった。会議の概要についてはホームページに掲載し、周知を図った。</p> <p>今後も市HPや市報等を積極的に活用し、広報活動を行っていく。</p>
	(3) 教育委員会と事務局との連携	① 教育委員会と事務局との連携	実現度 ↑ → 重要度		<p>教育委員会会議に、全部課長、関係職員が出席し、議案・報告案件の説明を詳細に行うため、提案の要旨、議案内容の理解ができています。</p> <p>また、教育委員会会議以外の場でも日常的に情報交換を行うなど連携を図ることができた。</p> <p>さらに、教育委員会の活性化を図るために、社会教育委員やスポーツ推進委員等の各種委員との意見交換会を開催したり、教育委員が社会教育委員の会を公聴するなど、それぞれの活動や取り組みを見て連携を深めるなどした。今後も継続して取り組みたい。</p>
	(4) 教育委員会と首長との連携	① 首長との意見交換	実現度 ↑ → 重要度		<p>教育行政の課題等について、市長及び副市長との意見交換会を実施した。特に教育長については、常に市長・副市長との協議の場を設け、積極的な連携に努めた。その結果、学校教育、社会教育、保健体育の各分野の施策、事業の進捗状況や課題等を相互理解することができ、予算等に反映させることができた。</p> <p>教育委員会が地域における教育の担い手としての責任を果たすため、今後も市長及び副市長との意思疎通を図りながら「協働のまちづくり」や「協働の学校づくり」を一体となって推進していく。</p>

平成24年度 小林市教育委員会の自己点検・評価シート その1

大項目	中項目	小項目	点検・評価	
1 教育委員会の活動	(5) 教育委員の自己研鑽	① 研修会への参加状況	実現度  ↑ → 重要度	<p>教育委員を対象とした研究大会・研修会に参加し、教育委員会及び教育委員活動の職務遂行に必要な知識等を深めることができた。県内の教育委員と情報交換等もできたため、有意義な機会となった。</p> <p>さらに、県教育委員会開催のコンプライアンス研修に参加し県教委との意見交換を行った。また、「教育委員の一口提案」を行い、各委員から16件の教育施策への提案があり、その中で「学校と教育委員のダイアログ（スクールミーティング）」を実現した。</p> <p>今後も積極的に研修に参加するとともに、近隣市町との合同研修会等の更なる充実を図っていく。</p>
	(6) 学校及び教育施設に関すること	① 学校訪問	実現度  ↑ → 重要度	<p>24年度は、学校訪問の形態を変更し、教育委員の立場で必要な内容の訪問内容に改善し、児童生徒の学習環境や学校施設の現状、教職員の勤務環境等の把握を行った。8校の学校訪問を行った。また、学校と教育委員のダイアログ（スクールミーティング）を3回実施した。</p> <p>学校訪問後は、教育委員会会議の中で感想や課題を報告し、教育施策や予算等に反映させることができた。</p> <p>今後も学校現場の現状や課題等を把握するため、教職員との意見交換の時間を重視するなど、より効果的な学校訪問となるよう内容の見直しを検討していく。</p>
		② 所管施設の訪問	実現度  ↑ → 重要度	<p>学校施設については、学校訪問の中で状況の把握に努めた。また、教育施設については、23年度から社会教育施設や体育施設等への訪問を行っており、24年度も実施した。その結果、各施設の維持管理、利用状況等の現状を把握することができた。</p> <p>今後も教育施設の適正な管理に必要な施策及び事業を推進ために、計画的に訪問を行う必要がある。</p>

平成24年度 小林市教育委員会の自己点検・評価シート その2

大項目	中項目	点検・評価	
2 教育委員会が管理・執行する事務	(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること	実現度  ↑ → 重要度	小林市教育基本方針並びに教育施策、小林市教育推進プランにおいて当該年度の施策や事業を示した。 また、小林市教育推進プランについては、23年度からの5ヶ年計画を策定し、各分野の重点施策を設定した。 重点施策の一つとして、市長マニフェスト項目でもあった「コミュニティ・スクール」について25年度の全小中学校への一斉導入に向けて準備を行った。
	(2) 教育委員会規則及び教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること	実現度  ↑ → 重要度	24年度は、小林市立学校管理規則の改正ほか規則7本、要綱9本、規程4本の制定・改正を行った。 特に、学校の管理運営の基本的事項について規定している「小林市立学校管理規則」の一部改正、「パワー・ハラスメントの防止等に関する規程」の制定、「小林市学校運営協議会規則」の制定をし、法制面の整備を図った。
	(3) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案の決定に関すること	実現度  ↑ → 重要度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6月第7回定例会 平成24年度6月補正予算 ・ 8月第9回定例会 平成23年度決算 ・ 8月第9回定例会 平成24年度9月補正予算 ・ 11月第12回定例会 平成24年度12月補正予算 ・ 2月第2回定例会 平成24年度3月補正予算 ・ 2月第2回定例会 平成25年度当初予算
	(4) 小林市立の小学校及び中学校その他の教育機関の設置、移転及び廃止に関すること	実現度  ↑ → 重要度	休校中であった鳥田町小学校、内山小学校、内山中学校について平成25年3月31日付で廃校の手続きを行った。 適応指導教室について、不登校児童生徒への指導及び援助に密接に関係する家庭児童相談室と連携体制の強化を図るため、家庭児童相談室の設置されている新別館へ移転した。
	(5) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること	実現度  ↑ → 重要度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月第3回臨時会 人事異動に際し、県との協議を重ね、適材適所の人事異動が実現できた。
	(6) 教育委員会事務局及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること	実現度  ↑ → 重要度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月第4回定例会 教育委員会の充実と活性化を図るため、市長部局との交流を図るなどの観点で協議を重ね、適材適所の人事異動が実現できた。
	(7) 教育委員会の所管に属する各種委員会委員の任免、委嘱及び解嘱に関すること	実現度  ↑ → 重要度	学校医ほか各種委員等の委嘱26件を、提案のとおり承認した。

平成24年度 小林市教育委員会の自己点検・評価シート その2

大項目	中項目	点検・評価										
2 教育委員会が管理・執行する事務	(8) 学校の通学区域の設定及び変更に関する事	実現度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ↑ → 重要度			○							烏田町小学校、内山小学校、内山中学校の廃校に伴い、24年11月に通学区域審議会を開催し通学区域の変更を行った。
			○									
	(9) 教科用図書の新採択に関する事	実現度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td></td><td></td></tr> </table> ↑ → 重要度							○			採択に関する事務はなかった。
○												
(10) 小林市文化財保護条例（平成18年条例第115号）による文化財の指定および解除に関する事	実現度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td></td><td></td></tr> </table> ↑ → 重要度							○			文化財の指定及び解除に関する事務はなかった。	
○												
(11) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関する事	実現度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>○</td><td></td><td></td></tr> </table> ↑ → 重要度							○			請願、陳情、訴訟及び異議の申立てはなかった。	
○												
(12) 教育委員会が管理する公の施設に係る指定管理者の導入並びに指定管理者の選定及び指定に関する事	実現度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ↑ → 重要度			○							小林市立図書館及び小林総合運動公園市営プール、森永貞一郎記念館については、指定管理者による施設管理、運営を行った。 市営プールは、24年度は23年度に比べて利用者数は減少したが、新たな企画に取り組みなど改善に取り組んだ。 小林市立図書館は、年々利用者が増加しており、24年度も昨年度より入館者数、貸出冊数が増える等住民ニーズに効果的に対応した運営がなされている。	
		○										
(13) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する事	実現度 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ↑ → 重要度			○							20年度から教育委員会が管理・執行する事務に関する報告を事務局に求め、目標に対しての成果や課題等を委員相互に確認、共有するなどきめ細かな点検・評価を行っている。24年度は23年度の評価について8月第9回定例会において決定、12月議会で小林市議会に報告、12月に小林市のホームページにて公表した。	
		○										

総合評価

教育委員会は、地域の教育を担う機関としてより開かれた運営と活発な議論、その機能を十分に発揮しながら諸施策を適正かつ円滑に実施していくことが、市民への説明責任を果たすことであり責務であります。

その中で、平成24年度の教育委員会活動は、議案の議決、報告事項及び事業や課題等を審議する毎月の委員会の他に、学校との連携を密にするため、「教育委員学校訪問」「スクールミーティング」を実施いたしました。また、地域との連携を深めるため、市の施策である「協働のまちづくり」とともに「協働の学校づくり」を一体となって推進することにも取り組み、平成25年度の導入に向けた「コミュニティ・スクール」について準備を整えることができました。

一方で、会議の傍聴者が少ない現状等から、開かれた運営については、今後の課題であると捉えております。広報・公聴活動方法の工夫や市民や関係機関との意見交換の場を多く持つなど、情報の伝達、公開の推進が必要であると考えます。さらに開かれた組織となるよう運営の工夫改善に努めて参ります。

事業については、小林市教育基本方針並びに教育施策、小林市教育推進プラン及び関係法令に基づき、おおむね順調に展開したことから、事業の年次目標はほぼ達成でき、かつ適正に実施できたものと考えております。

今後も、地域・社会・学校関係者等、多くの方々と意見交換の場を設けることで、市民との意思疎通を図りながら、一層の教育委員会の活性化を目指して参ります。

知見の活用（同法第27条第2項の規定による）

平成24年度の小林市教育委員会においては、おおむね適切かつ効率的な事業が計画・実施されているものと評価される。とりわけ、小林市教育推進プランに基づいた教育フォーラム事業・小中一貫教育推進事業等の事業への継続的な取り組み、及び、「協働の学校づくり」の推進を図ろうとする取り組み等は、行政が一体となって地域の教育課題に取り組む事業・計画として適切であると考えられる。また、目立った効果はまだ現れてはいないものの、夜間開催や複数会場開催など教育委員会会議の開催方法を継続的かつ地道に工夫している点、及びスクールミーティングや教育委員学校訪問等の実施は、市民・学校からの意見聴取の機会を増やすという点においてだけでなく、市民・学校への社会的な説明責任を果たす上でも重要な取り組みである。

自己点検・評価シートは、重要度と実現度という2つの座標軸によって年度ごとの評価の推移を視覚的に捉えることができるように工夫されている点において評価できる。ただ、中項目によっては、このような表記がなじまないものもあるので、その点は今後工夫を要する。

自己点検・評価シートで低位の実現度にある事業については、それを向上させる努力と同時に、なぜそれが低位にとどまっているのかという暫定的な分析結果の併記を望みたい。

今後とも、小林市教育基本方針や小林市教育推進プラン等との整合性を図りながら、教育課題の適切な解決に向けて、より有効性の高い、市民に開かれた事業の展開を期待する。

宮崎大学教育文化学部附属教育協働開発センター長 児玉 修